
令和6年度第3回大山町総合計画審議会

令和7年3月26日（水曜日） 午後2時から午後3時45分

大山町役場 本庁舎2階 第2・3・4会議室

会議次第

- 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 議 事
【報告事項】（1）大山町総合計画の検討状況について
【審議事項】（1）基本構想(案)の確認について
 - 4 その他
 - 5 閉 会
-

出席者

- 1 審議会委員（出席委員16人）

林 田 徹	大山町PTA連絡協議会 会長
西 田 菜々子	中山みどりの森保育園愛育会 会長
提 嶋 真知子	大山町人権・同和教育推進協議会
清 見 久 夫	大山町老人クラブ連合会 会長
押 村 行 史	大山町社会福祉協議会 事務局長
福 留 茂 樹	鳥取西部農業協同組合 中山支所支所長
大 許 和 浩	大山森林組合 代表理事組合長
山 根 均	大山町商工会 会長
足 立 敏 雄	大山町観光協会 会長
陶 山 友 文	大山町消防団 団長
松 信 多 榮子	大山町女性団体連絡協議会 会長
荒 金 恵美子	大山町民生児童委員協議会 大山支部副支部長
菰 田 レエ也	鳥取大学地域学部 講師
加 藤 禎 久	鳥取環境大学環境学部 准教授
門 脇 明 子	町民委員
本 間 唯	町民委員

審議会委員（欠席委員3人）

- | | |
|---------|---------------------|
| 金 田 結 花 | 大山町青年団 団長 |
| 藤 田 裕 利 | 鳥取県漁業協同組合御来屋支所 総務課長 |
| 松 本 将 治 | 大山町建設業協議会 会長 |

2 事務局職員

山根 篤 大	大山町 地方創生監
山崎 栄 一	大山町総合戦略課 課長
西村 濟	大山町総合戦略課 主任
木下 理 沙	大山町総合戦略課 会計年度任用職員

午後 2 時開会

次第 1 開会

○事務局 ただいまから、令和 6 年度第 3 回大山町総合計画審議会を開会します。開会にあたりまして、山根会長からご挨拶をお願いします。

次第 2 あいさつ

○会長 会長の山根でございます。私が進行させていただきますが、第 2 回の際にマイクを通していなくて、録音されてないことで議事録が作りにくいということがありましたので、マイクを使って発言をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局 それでは、次第 3 の議事に入ります。議事の進行は、山根会長をお願いします。

次第 3 議事

○会長 発言があればマイクを持っていきますので挙手をお願いします。それでは、報告事項の大山町総合計画の検討状況等について、事務局から報告をお願いします。

大山町総合計画の検討状況等について

○事務局 総合戦略課の西村です。本日もどうぞよろしくお願いいたします。報告事項としまして、これまでの総合計画の検討状況について、ご説明させていただきます。本日追加の資料としまして、資料 1 と資料 2 をお配りしております。

(資料 1 に沿って説明)

基本構想(案)基本理念について

○会長 基本理念ですが、これでよいか別の案か、意見を教えていただければと思います。

○委員 はい。副題のほうですが、「人と人」をあえて外してあるのでしょうか。

○事務局 「人と人」をあえてということではありませんが、副題が長過ぎるという意見

もあったので全体の長さや落ちつきを見みて調整しました。当然「人と人」とのつながりも大切だと考えています。

○委員 基本理念の上に書いてある解説や地域自主組織のヒアリング結果など、大山町の特徴は「人と人」というキーワードと感じています。これまでの大事にしてきた過程もあり、「人と人」は外さないほうがいいと思いました。バランス的でないほうがいいということでしたらそんなに強く思いませんが、「人と自然」があるのになぜ「人と人」がないのかと感じました。そして、「紡ぐまちの豊かさ」とありますが、「まち」というのも書いてあるので、副題の「まち」を削って、「人と人、人と自然が紡ぐ豊かさ」にしても分かるのではないかと感じました。

○事務局 ありがとうございます。「まち」が重なるというのは、ワーキング・グループ会議からもご意見をいただきましたので、分かるということであれば「まち」を重複させない方向で検討してもいいと考えます。

○会長 意味がつながればいいことですから、検討していただいてよろしいですか。

○委員 「紡ぐまち」についてはいいと思いますが、「人と自然が紡ぐ」というのはもっといい言葉がないかなと思いますがいかがでしょうか。「つながる」はいいけど「紡ぐ」というのは少しニュアンスが違うのではないかと思います。

○事務局 ありがとうございます。事務局でもいい言葉がないかと思っていろいろ考えさせていただきました。「紡ぐ」の一番の意味は、糸と糸を繊維にしていくということがありますが、最近ですと、物語を紡ぐとか、未来を紡ぐとか、何か一つを一緒にして形にするという意味の使われ方もしています。そうした意味で「人と自然」といった大山町のまちづくりの特徴を活かして、そういった要素を掛け合わせながらまちの豊かさをつくっていかうという考えのもとに「紡ぐ」という言葉にさせていただきました。またご意見をいただけたらと思います。

○委員 1回目と2回目に出席していない中でこのようなことを言うのは申し訳ないのですが、これまでの「楽しさ自給率が高いまち」がすごくいい言葉だと思っていて、覚えやすくとてもしっくりきていました。それと比べると、何かピンとこないような印象があります。何が変わって何が進化したのかということろが見えにくい気がします。人とのつながりとか、人と自然がつながるという中身はとても良いと思っていますが、言葉として伝わりにくいと感じています。自分ならどういう言葉をつくるか考えたのですが、前回は「楽しさ自給率の高いまち」だったので、今回はこれまでの10年間で作り上げてきたものを外に伝播していくというような飛躍があるといいと考えています。結局、全部を情報発信したらいいという話ではなく、情報発信ができるということは、大山町ってすごいんだと言えるくらいみんなが楽しいと思えるということだと思えるので、「楽しさ伝播力の高いまち」とか「楽しさ波及力の高いまち」とか、別のニュアンスも含めて進化したスローガンができないかと思いました。

○会長 ありがとうございます。事務局どうですか。

○事務局 はい。ありがとうございます。簡単にこれまでの経過を補足させていただきます。「楽しさ自給率」という視点において、人と人がつながっていく原動力に楽しさとい

う言葉を置いたのが第二次総合計画でした。地域自主組織の取り組みも楽しいことややってみたいことから始まって、今の地域課題の解決といったことにも取り組んでいただけるような形になってきたと思っております。ただ、お話を聞く中で、現実の生活における楽しさというのが難しくなっている心象があるというところも声として聞いております。それというのが、今でいうと物価高ですとか、人口減少によって地域のにぎわいがなくなって寂しくなった、子どもが少なくなってきたというようなお話をお聞きしてきました。今回は「わくわく」という言葉を核にしていますが、当然、楽しさというのも引き続き目指していきながら、楽しい状況に至るまでの暮らしの安心といったところを町民生活としてはまず保障していくことが大事ではないかということで今回の計画のテーマにしています。「わくわく」というと、楽しいわくわくもありますが、楽しいだけがわくわくではなくて、未来に希望を感じて動き出したいくなるようなわくわくもあるといった意味で、わくわくする状態が楽しさも含んで生活をしていく上での良い状態ではないだろうかということから、今回は「わくわく」できる状態を目指そうとしています。そういった状況を外に発信していくことは、当然必要だと思います。関係人口も増やしていきながらまちの活力を生み出していこうとする中では、まちの良さであったり人とのつながりであったり、しっかり発信していくことも方法論としては必要になるので、大きい意味で楽しさも包含した「わくわく」を目指していければいいと考えております。また皆さんのほうからご意見をいただければと思います。

○**会長** それでは基本理念について、ほかにご意見ございませんか。みんなで向かう方向性を基本理念でうたうことになります。もうしばらくご意見を聞きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

○**委員** 先ほどのタイトルが良いと感じます。副題の「まち」を削除して、「人と人、人と自然が紡ぐ豊かさ」と両方の要素が入るといいと感じました。主題で「つながる」という大きな帯があって、副題で「紡ぐ」という細かく見るイメージがあって、「人と人」、「人と自然」が細かく進められている画が浮かんだので良いと感じました。

○**会長** ありがとうございます。最初のタイトルはそのまま、次に「人と人、人と自然が紡ぐ豊かさ」でいいですか。

○**委員** 今回は「未来」という言葉がとても良いと思います。石破首相が楽しい日本と言ったことに対して、今の時代はそんな楽しい楽しいなんて言っているような場合ではないと、とても反発をしている人たちが多いです。将来への不安を持っている若い人たちも年をとっている人たちも不安を感じるようなこの世の中で、何を言っているのかというような反発があるから、かなり批判されているのだと思います。未来と言っても近い未来と遠い未来とがあり、これからの人たちの遠くの未来ということを考えることもあれば、自分にとって身近な人の近い未来ということも考えられます。幅広く奥行きがあるようなイメージがして「未来」という言葉が入ったのは良いと思いました。わくわく楽しいとだけ聞くとどうかと思いますが、このわくわくにも近い将来や遠い将来への希望だとか意欲だとか、計画案にはそういう意味も含めて書かれているので、今回のこのテーマは良いと感じています。

- 会長 ありがとうございます。主題はいいとして、副題は若干修正をしたいということです。そういったところをもう一度ワーキング・グループ会議で考えてもらえますか。
- 事務局 今回の基本構想は、今回の審議会で一定の結論を出していただきたいと考えております。
- 会長 了解です。二つの案がありますが、いかがでしょうか。
- 委員 ワーキング・グループ会議の意見の欄に、言葉をつなげただけで何を意味しているのか分かりにくいとあります。先ほど「紡ぐまちの豊かさ」に疑問を呈しておられましたが、この言葉を使うにしても少し分かりやすくしていただけたらと思います。
- 会長 若干の説明がいるということでしょうか。
- 委員 若い人でも高齢者でも分かりやすい言葉といえますか。
- 会長 今日で成案をつくることになりましたが、紡ぐが悪いわけではなく、何か分かりやすいということが必要でしょうか。
- 委員 私もこの文章は非常に分かりにくいと思いますが、結局こういうときには、ある程度避けられない部分もあると思います。さっきの「紡ぐ」というのは、綿を紡ぐという意味なので、私は違和感ないと思います。もう一つ、「まち」をとったら語呂が悪いという気もするので、この素案のほうがいいのかと私は思っております。
- 会長 ありがとうございます。
- 事務局 事務局からオンライン参加の委員からご意見があります。「主題はそのまま副題の最初に「人と人」を加えて「人と人、人と自然が紡ぐまちの豊かさ」としてもいいかもしれません。」と、ご意見をいただいております。
- 会長 ありがとうございます。「人と人、人と自然が紡ぐ豊かさ」なのか、「人と人、人と自然が紡ぐまちの豊かさ」なのか。
- 委員 「紡ぐ」があると、漠然でも何か少し細やかな感じがして、「紡ぐ」が入ったほうが良いように感じます。
- 委員 この中で選ぶのであれば、「人と人、人と自然が紡ぐまち」がいいと思いますし、主題には先ほどの「未来」という言葉が入っているのはいいと思います。「紡ぐ」があると、四方八方にいろんな形でつながっていくようなイメージが浮かぶので良い言葉だと思います。
- 会長 ありがとうございます。
- 委員 「紡ぐ」はとても気に入っているので、これは残してほしいと思います。「人と人、人と自然」も残して、あとは今のところどの意見にもうなずいています。
- 会長 分かりました。次どうですか。
- 委員 皆さんの話をいろいろ聞いて、「人と人、人と自然がつながる」がとても良いと思っていましたが、「つながる」と「紡ぐ」の意味合いが同じような意味合いだとお話を聞いて思えたので、この中では「人と人、人と自然が紡ぐまち」が良いと感じます。
- 会長 ありがとうございます。次どうですか。
- 委員 私もキーワードになっています「未来」と、「人と人」のキーワードが入ったほうが良いかと思ひまして、先ほど言われました「人と人、人と自然が紡ぐ」に賛成です。

「人と自然」の前に「人と人」があったほうが、その後につながりやすいとイメージしました。

○会長 「まち」はどうか。

○委員 「まち」は、主題と同じような形になりますが、「まち」はあったほうが個人的には良いと思います。

○会長 次はどうか。

○委員 「わくわく楽しい未来につながるまち」というのは、今の時点からそこに向かっていくという意味表示みたいなものを感じるの、そこはいいと思います。次に、「人と人」をここに加えるというのも良いかと思います。ただ、長くなると言われれば少しためらいますが、理念をしっかり伝えることが一番大事なので、少々長くなっても構わないと思っています。

○会長 ありがとうございます。最後になりますが、ご意見をお願いします。

○委員 私も「人と人、人と自然が紡ぐ」で「まち」は入ったほうがいいと思います。「人と人」も長くなりますが、私は入ったほうが良いと思います。要は、どう発信して説明、浸透させていくかではないかと思います。それであれば理念はこれで良いと思います。

○会長 ありがとうございます。そうしますと大方のご意見としては、主題は「わくわく楽しい未来につながるまち」のまま、副題を「人と人、人と自然が紡ぐまちの豊かさ」で皆さんの意見がまとまっているようですので、よろしゅうございますか。

(「よし」と呼ぶ者あり)

○会長 ありがとうございます。それでは、基本理念はこれで終わります。

基本構想(案)計画全般について

○会長 続きまして、基本構想案についてですが、事務局から説明がありますか。

○事務局 はい。では事務局から補足させていただきます。序論と基本構想がありますが、序論については、体裁と不透明な表現、例えば、若者が働きたくなる仕事というのを、若者が働きたくなる企業の誘致といった解像度を上げるような修正を行ってきました。基本構想につきましては、事前にお配りした資料でご確認いただくこととなりますが、前回の審議会でもいただいた意見のフィードバックをさせていただきます。

作成中であったイベントページは、16 ページに成案ということで反映させていただいております。あとは、これまでの地域自主組織の取り組みやこういった特色を持って活動をしているのかというところを序論で紹介することによって、自主組織の活動も活発化するのではないかとワーキング・グループ会議からご意見をいただき、17 ページに地域自主組織の概要紹介のページを新たに加えております。また、地域自主組織の目的や行政として期待する役割をどう整理しているのかということに関しては、担当課とお話をさせていただきました。地域自治組織の位置づけについては、人口減少が進んでいく

中で、地域コミュニティが衰退していったり、少子化・高齢化によって地域で担っていた地域活動が難しくなったり、また価値観が多様化して行って行政サービスだけでは画一的な形になってしまうところを地域で考えて主体的に取り組んでいくといったような、課題感や地域の活性化に向けて役割分担をして、地域自主組織を行政のパートナーとしてまちづくりを進めていきたいとしております。進捗に関しては概ね3段階で見ている、組織の設立から1～3年くらいの時期には、イベントを起こしたり、カフェの運営等をしたり、そういった交流事業を行うことで組織の基盤をつくる段階、4～6年目くらいになってくると、例えば共助交通ですとか、子供の居場所づくりですとか、そういった地域の暮らしの困り事にも資するような取り組みをしていってもらいたいという段階、7～10年目くらいになれば、大学等と連携をして地域医療のことを主体的に考えていただいたり、地域外の組織間の連携や交流人口とも連携しながら地域のにぎわいの創出に取り組んだり、そういった広域的な課題解決にも寄与していただけるような形を目指していきたいとしております。全体の進捗は大体中間くらいという印象だと聞いておりますけれども、行政のまちづくりのパートナーとして引き続き役割分担をしながら、まちづくりを進めていきたいというふうに地域自主組織の取り組みを行っています。

○**会長** ありがとうございます。どうぞ。

○**委員** 今の説明は、計画に盛り込まれて書かれていますか。今後8年のまちづくりに対する町の期待感や想定される姿を話されたと思いますが、計画に書かれていると解釈していいかお聞きします。

○**会長** はい。事務局。

○**事務局** はい。ありがとうございます。説明の中の細かいところは記載していませんが、計画案の16ページから17ページにかけて、行政のパートナーというところですか、地域自治組織が広域的な課題への対応や集落の取り組みのバックアップ、そういった説明をさせていただいております。

○**会長** 私が地域自主組織に入ってなかったので事前に話を聞いたということもありますが、この中で地域自主組織の中で活動されたことがある方はいらっしゃいますか。私たちが内容があまり分かりませんので。

○**委員** 私は、きばらいや上中山に属しております。10年ぐらいになりますが、最初は過疎地で無人になった保育所がどんどん荒れていくのを見かねて、女性団体の有志が使おうということで動き出しました。週1・2回のカフェですが、人が集まることをやろうというつもりでやってまいりました。今は週1回の食事とか、色んな高齢者がその日だけはやってくるというような過疎地の集まりどころをつくっております。今回は地域自主組織の全部にお話を聞かれて資料をつくられたようで、若い集落支援員さんからは、わくわく楽しいって何かよくなっていくような気がするね、という意見も聞いております。今回この総合計画の最初の3ページ「総合計画をつくる目的」の中に、地域自主組織のことが少し書かれたので、この辺が変わったなど私は認識しております。自主組織もその運営は様々なので、その地域に合ったやり方で同じことはやっていないと思いま

す。私も地域に少し関わろうかなと思ってやっております。皆様も地域に協力してあげてください。

○**会長** はい。ありがとうございます。

○**委員** 私は、大山の里所子です。昨日たまたま日本海新聞に2024年のふるさと大賞で表彰していただいた記事がありまして、それによりますと大山の里所子の会員は2654人とあって、全戸が対象という意味ですよ。

○**会長** そうですね。

○**委員** その中で活動していらっしゃる人は一部なのですが、何かあったときに問題点などをみんなが考えて、いい地域にしていきたいと思いますという考えで活動していらっしゃるようです。最近では若い人もリモートで参加したり、グループLINEをつくって情報を得たりもしています。計画案をととてもよくまとめていただいてありがとうございます。これからどんどん自主組織というのが重要になってくると思っています。

○**会長** 私もこれはいい取り組みだなと思います。まだ活動に入っていないが、基本理念に沿って行政と町民とで町をつくり上げていくということで、第三次総合計画に位置づけていくということですので、計画に沿って行政と町民が力を合わせて協力してやっていくための計画案です。自主組織というのは、バランスがいい組織だなというふうに思いますし、50%ではなくて100%の進捗になれば、良い大山町になるのではないかなと思っています。基本構想について、まだ意見がありますか。

○**委員** 総合計画と一体的策定とする計画等ということで、今回考えている計画が一番幹になる部分で、下にいろんな計画が来ると書いてあります。重点課題の人権施策総合計画の審議会という会議がありますが、人権施策総合計画はあえて外されているのか、大山町の大切な施策だと思うので、入れておいたほうが良いのではないかという感じがします。それと、全般的に人権課題についての項がなく、あるセミナーでは大山町はあまり人権施策について触れてないという指摘を受けた経緯もあります。みんながつながろうという中に、人権課題と向き合ってきた経緯が大山町にあります。まだまだ人権課題があると思うので、個別計画の中には記載してほしいと思います。

○**会長** 事務局からありますか。

○**事務局** はい。ありがとうございます。人権の計画をご意見いただいたように整理をしたいと思います。施策に関して申し上げますと、広い意味で基本目標におけるくらしの視点の中に含ませていただいております。

○**委員** 人権施策総合計画の審議会では、個別計画がなくなるという説明は今のところないので、記載するべきという気がいたします。次に(1)協働・共創によるまちづくりの推進ということで、「性別、年齢、個性、考え方などに違いのある様々な人が互いに認め合い」と書いてありますけど、こうした違いのある方が互いに認め合うということもあるのですが、「それぞれの人権を尊重し」という言葉に変えて、人権を尊重するという文言を大山町の中では生かして、大切にしたいほうがいいと思います。性別、年齢、個性、考え方などに違いのある様々な方々が「お互いに認め合う」のではなく、「その違いがあっても、それぞれの人がそれを認め合う」ということと意味が違う気がします。

- 会長** 人権やジェンダーの考え方と。
- 委員** 障がい者とか男女共同参画は載っていますが、その前提となる人権尊重の項が抜けているので、課題として残しておいてほしいという意味です。
- 会長** はい。分かりました。これについてはまた役所内で、もう一度検討いただいて、今回は最後なので事務局に一任させていただいてよろしいでしょうか。その文言については以上ですか。そのほかありますか。どうぞ。
- 委員** 今日いただいた資料2はアンケートデータ取集中とありますが、これが総合計画の何ページに差し込まれる予定の資料ですか。
- 事務局** はい。38 ページです。
- 委員** 分かりました。
- 委員** 同じページのところで主観データと客観データの意味がどこかで説明されていますか。どう読み解いたらいいか分からなくて、説明があれば良いと思いました。
- 事務局** はい。ありがとうございます。38 ページの下のほうに注釈を入れておまして、米印の二つ目です。読ませていただきますと、地域幸福度指標とは、アンケート調査によって町民の幸福感を主観データとして、またオープンデータ（健診の診断受診率や小学校数、投票率等）によって町民の暮らしやすさを客観データとして、それぞれ数値化・可視化するものということで説明しております。幸福感というのは、アンケート調査で資料を集めて、暮らしやすさというのは、学校の数ですとか公園の数ですとか、オープンデータでそれぞれが数値化されていきます。
- 具体的な話をするると、資料2のグラフに傾向が出ています。例えば、自然の恵みや自然環境という項目がグラフの真ん中下にあります。オレンジ色が主観データでして、アンケート調査結果によると、皆さん自然の恵みや自然景観がとてもいいと感じていらっしゃるという結果が出ています。一方で客観データはグラフの内側に入っていて伸びていません。この要因としては、公園の数が少ないといったことが客観的なデータとして出ているものと思います。大山町内は自然が多いので、都心に比べると大きな公園や数があまりないと思いますが、そういうギャップがデータに出ています。実態に一步踏み込むと、公園の数が増えないといけないのかということ、公園以外にも自然が豊かだから必要ないのではないのかとか、こういったデータを使うことで施策の立案に役立ちます。また、主観データの数値がどんどん上がってくれば、町民の生活の満足度も上がってきているという見方ができるので、そういった活用ができると考えております。
- 会長** どうですか。グラフの見方はよろしいですか。
- 委員** 基本構想に入れるか分かりませんが、今のように解説していただくのととてもよく分かるので、この資料を見たときに町民が分かりやすいように、例が一つでも書いてあると読み取りやすくなるかと思いました。
- 会長** ありがとうございます。
- 委員** 私も先ほどの説明でよく分かりましたが、自己効力感という意味がよくわかりませんでした。こういう言葉をあまり聞いたことがないのですが、皆さんよく分かりますか。

○事務局 この指標は大山町独自でやっているものではなくて、国のデジタル庁でウェルビーイングという評価尺度を使って、人々の生活がよくなっていくように活用されているものです。総合計画の基本構想では、事業が一つ一つどういった効果を上げているかということ全体として見ることは難しく、全体としてどういうふうに感じ取られているのか数字にしにくいところをあえて数字にしているということで今回指標として使っています。前段が長くなりましたけれども、自己効力感は、アンケートの設問内容を見ると、自分が何か地域のために役立っているといった意味での設問になっていたと思いますので、自分が何かしら効力を生み出せるという項目になっています。

○会長 いいですか。

○委員 今の説明で分かりました。ここを皆さんがじっくりご覧になるか分かりませんが、言葉が分かりませんでした。それと、幸福感の感は、観念の観ではなくて、この感のほうかふさわしいですか。

○事務局 はい。統一しております。

○委員 はい。分かりました。

○事務局 今回こういった指標を使うということに関して、これまでの会議の中でもいろいろご意見いただきました。例えば、こういう指標を使うという紹介だけで十分ではないとか、事細かく説明を書く必要があるだろうかとか、この指標に技術的なところが多く出てくるところでのご意見をいただいております、どのあたりまで調整させていただくと良いかご意見いただければと思います。

○会長 これは行政側が町民の皆さんに理解をいただいて、これからの理念を持ってどういう方向にどういう具体的な施策をするかというところの理解をいただくための資料で、根本の理念である考え方だと思うので、そんなに難しいことは必要ないと思われる気がしますが、皆さんどうですか。はい。どうぞ。

○委員 このウェルビーイングのグラフは、今後はいろいろな場面で出てくるかもしれないので、ただ提示されるだけでも皆さんがだんだん慣れてこられると思います。ですから、そんなに細かくはされなくても今の段階では良いと思います。

○会長 分かりました。今後パブリックコメントをホームページなどで出すときには若干の説明がつくのかもかもしれませんが、そのあたりは、役場のほうで一回相談していただくということでいいですか。

○委員 これからホームページで公開されていくということで、毎年いつ頃ホームページに新しいものを公開されるとか、リンクやQRコードといったものがあるとつながりやすくなるのであるとうれしいです。

○会長 はい。パブリックコメントはホームページだけでしたか。

○事務局 窓口でも行います。パブリックコメントは方法が決まっています、それぞれの窓口での紙の設置とホームページでの公開と方法が決めていますので、そのとおりにさせていただきます。

○会長 ということです。基構想案についての意見は大体よろしいですか。これで事前に配ってもらった案で進めさせていただいてよろしいですか。

- 委員 34 ページの「少子化と高齢化による人口減少と地域の活力の低下」これは「地域の活力の低下」が「高齢化」にかかっているのでしょうか。少子化と高齢化による人口減少、少子化は人口減少につながるとは思います、高齢化による地域の活力の低下という意図があるのであれば高齢者としては抵抗があります。
- 会長 高齢者としては抵抗があると。
- 委員 あります。ただでさえ、少子高齢化で地域の何かと言われているので、あえて少子化と高齢化を離してもらっています。皆さん平気で言われますが、我々一生懸命生きてきて、この平和な社会をつくってきて、増えてきたらいきなり何か地域の課題とか、そのあたりにいつも抵抗しているので工夫してもらいたいと思っています。
- 委員 そんなふうに考えますか。
- 会長 これは文章によって若干の。
- 委員 抵抗があるということだけ伝えておきます。
- 会長 事務局で書き方を考えてもらうということ。
- 委員 それと 35 ページ真ん中の表の「ひと・しごと・くらし・しぜん」を「横ぐしで刺し」という表現があります。
- 委員 分かります。私もここは違和感があります。
- 委員 少々意見が違ふかもしれませんが、私は鎖でつながれるなど何かほかの表現が良いかと思います。なぜ「横ぐし」なのかと思います。
- 委員 「目標同士の間につながりの力で横ぐしを刺し」の部分、読んだときに私は何かとても違和感があり、この文章はいるだろうかと思いました。
- 会長 要するに関連させるということですね。刺すのが適当ではありませんか。
- 委員 その表現が気になります。ないほうがスッキリするのではないかと思います。
- 会長 では、事務局で削除することも含めて言い方を考えてください。そのほかはよろしいですか。

(「よし」と呼ぶ者あり)

- 会長 ありがとうございます。以上でこの第三次総合計画の成案に向かって最終的な検討を終わることにさせていただきます。長い間ありがとうございました。

次第4 その他

(事務局からの事務連絡)

次第5 閉会

午後3時45分閉会